

令和元年度 第5回 伊勢市障害者施策推進協議会自立支援部会 議事録（要旨）

開催日時 令和2年1月7日（火）午前10時～12時

開催場所 伊勢市役所 東館 5-3会議室

出席委員 市川知律部会長、浦田宗昭委員、竹澤尚美委員、森見典子委員、川口幸生委員、
大田桃子委員、直江敦代委員、中川佳代委員、高岡祐理佳委員

事務局 伊勢市障害者総合相談支援センター フクシア（基幹型） 職員 2名

傍聴者 4名

障がい福祉課 課長：

伊勢市では、サポーター制度について、ガバメントクラウドファンディングも行い発信をさせて頂いている。今年もよろしくお願い致します。

部会長挨拶：

第5期障害福祉計画の中間年度も中間を過ぎてきている中、活発な議論を行っていききたい。

1. 各プロジェクトチームの状況について

(1) 地域生活支援拠点チーム 報告

【担当委員より報告】

- ・今年度夏に「検討結果 中間報告書」を提出し、部会から障害者施策推進協議会へ報告された後も、市からの明確な応答がないため、チームとしての活動を模索している現状。

ただし、市がどうであろうと、地域生活支援拠点等の整備は必要であるため、出来る事はやっていきたいと考えている。今後は、他サービス事業所とも連携し一緒に、予算なく出来る事、現状やっている事等の把握も含め、中間報告書の内容精査等を行っていききたい。

【各委員主な意見等】

- ・資料にあるチームから市に確認したい内容は、自立支援部会が市に質問する形となるだろう。
- ・提出した中間報告書に対して、市としてこういう部分から取り組んでいく、ここは難しいなどの議論が出来るとよい。
- ・市への確認事項にもあるが、チームのアンケート調査結果以上に市が知りたい事とは何か？
→事務局：十分に行政と精査されていないが、アンケート調査結果からは見えてこない現在事業所が独自に行っている拠点機能に繋がる事を知りたいとの話は聞いている。
⇒上記を踏まえると、自立支援部会からの質問項目としては、市の考える自立支援部会（地域生活支援拠点チーム）の役割、人材不足に対する市の取組み状況、拠点整備への予算も含めた対応の見込み、自立支援部会（地域生活支援拠点チーム）からの各提案への対応状況、とする。
- ・現状各事業所で先行してやっている事に予算手当がされるように、仕分けしていけると良い。
- ・就職氷河期の方への施策は人材確保等に繋がるかもしれないので、把握出来ると良い。
- ・コーディネーターの役割を拠点チームからも意見をもらえるとよい。整備前と整備後の役割が混乱されている。
- ・地域生活支援拠点の機能は、令和3年度に、機能させたいではなく、スタートが必須である。
⇒今後の拠点チームの活動は、他サービス等事業所と一緒に検討していく形であると部会も了承する。年間計画に盛り込んでもらいたい。

(2) 人材確保・養成チーム 報告

【担当委員に代わり事務局より報告】

- 1) 地域の実情について、以下のように意見交換した
 - ・今年度も障害ヘルパー事業を中止する事業所が出ており、ヘルパー不足が顕著。
 - ・求人を出しても応募が無い状況。
 - ・若い人へのPRには、SNS等の媒体が効果的だが、事業所により取組みが難しいので、地域全体として集約発信出来る仕組みがあると良い。
- 2) 今後の検討テーマの優先順位について、以下のように検討確認した
 - ・優先的に取組むテーマは、具体的な話のある①中学生へ福祉の仕事啓発、②就職面接会の開催、および喫緊の課題でもある③ヘルパー養成のためのシステムづくり。
 - ・中心的に取組むテーマは、④人材の評価指標と認証およびその養成研修の仕組みの構築、およびその中で⑤スーパーバイズ体制の構築。
 - ・その他、⑥交流会や研修会の開催、⑦事業所の評価指標と認証の仕組み構築は、タイミングを見て検討していく。
- 3) 各検討テーマについて
 - ・中学生への福祉の仕事の啓発として、ビジネスパーク伊勢へ講師参加させて頂く事について、1月23日皇學館中学校へ、講師担当事務局(フクシア基幹型)で参加させて頂く予定とした。
 - ・就職面接会の開催について、県人材センターが開催予定のミニ就職相談会へ、求人側の事業所や求職者への周知等で協力をしていくとし、周知PRも含めた開催場所の選定について検討。また、今後、より多くの方に参加頂くには、別途メリットの確保や他イベントとの共催等が必要であると確認。
 - ・ヘルパー養成のためのシステムづくりについて、県人材センターが伊勢市で実施した介護職員初任者研修の結果を共有し、ヘルパー人材増加への取組みを検討した。伊勢市での開催により、1回あたりの市内在住者の参加者数は倍増。また、終了後の市内事業所への就職者数は、参加条件でもあるためか変わらず高い割合であった。今後これら踏まえ、継続検討していく。
 - ・人材の評価指標と認証およびその養成研修の仕組み構築と、スーパーバイズ体制の構築について、今後の検討にあたり「三重県障がい福祉従事者人材育成ビジョン」にある、障がい福祉従事者に求められる資質「価値観」「知識」「スキル」について確認した。
 - ・今後について、障害者施策推進協議会への提案を見据え、来年度夏頃を目処に具体的に提案まとめる必要があることを確認した。

【各委員主な意見等】

- ・介護職員初任者研修については、伊勢市でも予算補助出していると思われる。それも含め、補助内容や対象者などを一覧にしたほうが良い。
- ・三重県からの委託事業として、児童発達支援管理責任者へのスキルアップ研修を実施するので、その中でも人材養成等へ協力をしていきたい。
- ・家族会の中でも、意識にもそれぞれ差があり、サービスを紹介しても利用しようとならない家族もまだまだ多い現状である。
- ・ヘルパー不足は深刻な状況で、家族の負担過多にて虐待に繋がってしまわないかとも心配する程である。移動支援等使える制度があっても、ヘルパーが居ない。
- ・学校でも、家族以外の人との支援関係の経験をと伝えているが、事業所がないヘルパーが居ないと言われてしまうと、どうしようもなくなってしまうと感じる現状である。
- ・ヘルパー等の確保は喫緊の課題として、短期的では戻ってしまうので、恒久的に確保できるシ

ステを検討して頂きたい。

- ・三重県人材育成ビジョンの中では、特に支援者の成長フローを参考にして検討頂きたい。

(3) 就労支援チーム 報告

【担当委員より報告】

求職期における各立場からの課題などを以下のように協議した。

- ・求職期の定義を、働きたいとの希望があり、通所等が安定し自己理解等が深まりハローワークに求職登録等できる状況と整理した。
- ・当事者においては、就労経験がない方等は一步踏み出しにくいので就労体験機会が重要。
- ・家族においては、本人への理解や評価にズレが起こりやすい。
- ・特別支援学校においては、学校から企業へ業務等を提案はしにくいいため、専門家の介入があると良い。また、就労移行の利用が合うと思っても、本人や家族は希望されない事もある。
- ・サービス事業所においては、委託訓練は効果的だが、事業所にはその間報酬が入らなくなるという状況もある。
- ・企業においては、障害理解が少ない面があったり、障害者雇用への不安を抱えていたりする。仕事の切り出しへのコーディネートが出来ると良い。また、他企業のノウハウが企業間で知れると良い。
- ・一般高校等においては、一般高校から雇用される方の方が辞めやすい現状もある。ご本人等に障害の認知や必要な支援を求める力が低い場合がある。障害を踏まえた実習制度が少なく、先生も障害特性への意識が薄れやすい面もあると思われる。就職を希望しない事で内定率の分母に反映されない学生が、県内年間 150 人～200 人程度あるが、その中に課題を抱えている方もいると思われる。就職後企業から言われて障害者手帳を取得する方も多い。
三重県教育委員会への聞き取りでは、一般高校等では個別対応しにくい状況がある事や、外部人材を活用し専門性を補ったりしているとの事であった。
- ・医療においては、医師による就労への適正評価の際に、医師に適切な情報が届く必要がある。
- ・就業・生活支援センターは、教育・福祉・雇用等を繋ぐ事業であり、役割への期待が大きい。
- ・行政においては、啓発しても参加は大企業になりやすい。

今後については、

次回定着期について協議予定。課題の優先順位付け等へ来年度に入るかもしれない。

【各委員主な意見等】

- ・企業からは、雇って付いて教えては負担なのでコーディネートしてもらえるとよいと聞く。例えば、1つの場所に複数の障がいのある方が来て、そこにそれぞれ得意分野に合う内容の仕事を各企業からもらう等が出来ると良いのではないか等の話があった。現状、企業は自ら色々動いていくというだけの余力はないという状況であると思われる。
- ・特例子会社として、上記に似たようなことをしている部分はある。いろんな雇用の形態を作っていけると良いだろう。
- ・今年度伊勢市在住の高3生では、5人が一般就労の予定で、うち2人が初雇用の企業。初企業は、障害者雇用を考えてはいたがどうしたらよいか分からなかったとの事だった。雇用意思のある企業が声を出せるような場や仕組みがあると良い。雇用率未達成企業の情報も共有できると良い。
- ・雇用率ありきだけだと離職につながりやすくもなる。意欲ある企業が、採用分野など整理された中で求人等が出来ると良い。

- ・学校では、卒業後も3年間はフォローしており、その他はハローワークと連携したり、これまでは就業・生活支援センターと連携していた。また、退職の連絡は本人や企業からも頂いたりする状況。
- ・企業と障がいのある方のマッチングの場所が出来るとよい。
- ・就職面接会をハローワークでしているが、それ以外に、就職はしないが面接会練習として雇用歴ない企業に来てもらい顔合わせてもらう等もしている。これらに一般高も参加出来るると良い。

2. 令和元年度「交流会およびサービス事業所等連携会議」について（12/5 開催）

1) 「交流会およびサービス事業所等連携会議」12/5 開催結果について

【事務局より報告】

・参加者は、市民等の第1部は合計50名、関係者のみの第2部は合計29名、運営側が13名。

第1部について

- ・アンケート結果では、自立支援部会への関心の高まりは「高まった・ある程度高まった」80%、自立支援部会の活動への期待は「大いに期待・少し期待」82%、自立支援部会交流会の今後のあり方は「今回のような内容で良い」50%、「少し改善が必要」26%との結果。
- ・自由記述では、大まかであるがとてもよく分かった。一方的な感じがあり交流会なので交流の時間を。実現と拡大をして頂きたい。事例を聞きたい。当事者も入れて頂きたい。声の届かない現状を感じる。伊勢市の障害者施策の説明会が年2回位あると良い等と頂いた。

第2部について

- ・日頃の課題として、就労系では、人材確保や育成、仕事量の不安定さなど。日中活動系では、ご家族の高齢化、緊急事態にも対応しにくい職員不足、他施設との連携。児童系では、ショートステイの少なさ、中学生以上の発達を支援する放課後等デイサービスデイの少なさ、他事業所への見学のしにくさ。訪問系では、人材不足、資源制度の足りなさ。居住系では、ショートステイやグループホームの不足、地域生活移行への迷いや困難さ等と頂いた。
- ・取り組みたい事として、就労系では、事業所を超えた仕事シェア。日中活動系では、緊急対応事例共有、課題解決への取組み、相互施設見学。児童系では、事業所間見学、顔の見える連携機会。訪問系では、喀痰研修第3号研修の予算化、災害の備え、行政との連携（市職員のこの会議への参加や共同取組み）。居住系では、一人暮らしやグループホーム暮らし作戦、事業所や学校の見学ツアー等と頂いた。
- ・アンケート結果は、自立支援部会の活動への参加・協力は、「参加したい」34%、「協力したい」45%、参加して良かったかは、「非常に良かった」55%、「ある程度良かった」38%等。
- ・自由記述では、参加したいが職員が少なく難しい。地域の課題に協力したい。もっと色々な事業所の意見を聞きたい。解決策まで話し合いたい。行政の方もグループワークに参加して頂き、市として必要な課題を捉えて頂きたい等と頂いた。

【各委員主な意見等】

- ・終了後に、苦情的な意見として、伊勢市職員は第1部のみで全員帰る必要があったのかとの複数の意見を頂いた。アンケート結果にもあるが、市との共催の仕方の検討が必要だろう。
- ・市職員はゼロではいけない。他では出ない生の声も出るなので、聞いてもらいたい。前向きに参加してくれている事業所の方々に失礼にあたる。
- ・作業所や学校後の夕方の居場所がないとの声あり、終了後すぐにフリースペースを午前から月1回15時~17時の開催に変えてみる事となった。生の声を聞けるので、市の方も含め少しでも多くの方に来てもらえると良い。話すことで、すっきりしたり、元気をもらったりする。交

流会の大事さを改めて感じた。

- ・上記は、社会資源の改良に繋がったということである。
- ・改良する点として交流会なので報告だけでなく交流をする必要がある。事務局でも市と共有して頂きたい。交流のあり方については、次年度の大きな課題として挙げていきたい。
- ・全サービス種別同じ時間帯での開催は限界と思われ、検討が必要である。ただし、続けていくことへの期待ももらっているので、部会として継続していきたい。

2) 次回第3回サービス事業所等連携会議について

【事務局より報告】

- ・自立支援部会年間計画で、連携会議は3回実施予定としており、前回は第2回、次回第3回では、これまでの声を踏まえて、実際の内容に反映させて開催するとしていた。
- ・これまでの参加者の声を踏まえ、「サービス事業所見学会」を開催するという運営会議における案について検討頂きたい。内容は、成人通所、児童通所、居住系施設への3回シリーズで開催。対象者は市内サービス事業所職員、支援関係者、当事者、ご家族、その他市民、行政職員。見学先への移動手段を専用のマイクロバス等を手配する。その他、日程や時間帯や参加人数等は見学先協力事業所との調整次第としている。

【各委員主な意見等】

- ・家族なども含め、興味あるところを見学頂く良い機会だろう
- ・対象者には、部会委員やその他関係者等も含むか？
→事務局：広く参加頂けるように、「障害福祉分野に関係のある市民」と考えている。
- ・先着順になるか？
→事務局：見学先事業所の駐車スペースや車の乗車人数の関係から、先着順と人数限らせてもらうことになると思われる。今回の希望者の状況を踏まえ、来年度の継続実施も検討頂ければと考えている。
- ・参加費等をもらうとすると法に抵触してしまうかもしれないが…？
→事務局：参加費は無料と考えている。以前、基幹型の地域生活移行への取り組みとして、施設入所支援の利用者や職員と、地域のサービス事業所の見学ツアーを実施したことがある。その際のノウハウを生かしていきたいと考えている。
- ・マイクロバスの確保や補償の確保（保険）など、クリアしないといけない課題は残っているが、大枠内容を承とする。これ以降は、重要事項は部会委員に確認をするが、その他は部会長一任とする。

3. 令和2年度 自立支援部会年間計画(概要)(案)について

【事務局より報告】

- ・次年度年間計画の詳細な検討は、次回3月部会で検討頂きたいが、その前の2月障害者施策推進協議会への報告も含めて、運営会議からの年間計画の概要案について検討頂きたい。
- ・年間目標は、長期目標はすでに障害福祉計画基本目標と同じ「だれもが自分らしく暮らせる 自立と共生のまち いせ」とされている。短期目標は、今年度は「知ってもらおう自立支援部会」であり、来年度新たに検討が必要な状況である。
- ・自立支援部会について、委員は現状変わらずお願いさせて頂きたい。開催頻度は年間6回。開催時期は予算に絡む提案時期も踏まえ5月、7月、8月、11月、1月、3月。内容は、これまでに加え、障害福祉計画等の策定年度であるためこれに関する事も大きな点と考えられる。
- ・各プロジェクトチームは、現状継続と、その他チームの必要性は、今後部会で検討頂きたい。

- ・交流会および障害福祉サービス等事業所連携会議について、市民の方々も含めた交流会は年1回以上開催とし、「交流」のあり方の検討も含める。関係者のみの連携会議は、全体会議は年1回以上開催とし、各サービス種別ごとのグループでの開催を年1～2回以上開催するとしている。
- ・運営会議については、毎月開催で変わらず。委員を、現状の各地域相談支援センター代表3名と基幹型に加え、さらに相談支援ネットワーク会議（計画相談）より代表者2名増員頂き、中立性の担保やさらなる地域課題への対応力向上を図りたいと考えている。
- ・事務局会議については、現状と変わらず、毎月開催。
- ・その他、部会内の組織構成等も随時部会で検討頂き、改善を図るとしている。

【各委員主な意見等】

- ・来年度は、第6期障害福祉計画策定年度になるので重要である。
- ・自立支援部会委員の任期をしっかりと設定する事が必須である。来年度以降検討頂きたい。
- ・上記を踏まえ、自立支援部会の委員に、当事者に参加頂く事は自立支援協議会としては必須であろう。来年度以降協議していききたい。
- ・各プロジェクトチームについては、目的や中身を再度確認検討してきたい。
- ・運営会議へのネットワーク会議から2名参加については、参加者から協力は頂けるだろう。
- ・重要事項なので、今日の意見を踏まえて修正したものを、委員に確認頂くこととする。

4. 次回 施策推進協議会へ向けた確認など

【事務局より報告】

- ・基本的には、全体として「報告」となると考えられる。
- ・内容としては、①プロジェクトチームの報告、②交流会およびサービス事業所等連携会議の開催報告、③市民向けパンフレットの作成報告、④来年度自立支援部会年間計画概要の報告、以上になると思われる。

【各委員主な意見等】

- ・来年度年間計画については、自立支援部会内の各会議がどれだけの頻度で開催されているかについて、一覧表で見れるスケジュール表的なものを作成して頂きたい。各委員がどれだけ時間をさいているかが分かりやすいと良いと思われる。

5. その他

【担当委員からの報告】

- ・伊っ勢の！実行委員会の状況について報告。昨年度と実行委員も変わりが無い状況。1月26日が本番になる。
- ・次回から、実行委員会の会議録を資料に入れて頂きたい。

【事務局より報告】

- ・次回自立支援部会：3月3日（火）10:00～ 市役所 東館5-3会議室
- ・研修案内：1月24日「家族支援研修会」保護者自身の人生への視点の研修となる